

手をたずさえて

“小原田PRIDE”～自信と誇り

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和4年1月12日（水）発行

【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋



保護者の皆様へ 2022年《令和4年》

新たな年のスタートです。良き年になりますように…
今年もよろしくお願いいたします！！



保護者の皆様におかれましては、新たな気持ちで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
短い冬休みでしたが、現在のところ事故等の報告はありません。ご家庭でのご支援ありがとうございました。
さて、いよいよ3学期がスタートしました。しかしながら、オミクロン株を含めた新型コロナウイルスの感染が全国的に急拡大する憂慮すべき状況にあります。3学期はこれまで以上に感染症対策を徹底していく必要があります。本日、感染拡大防止に係る対応について通知を発出しましたので、ご確認をお願いいたします。

3学期は短くあっという間ですが、各学年の締めくくりの大切な学期でもあります。コロナ禍はまだ続きますが、生徒には「今しかできないこと」「今だからできること」を頑張り、悔いを残さないよう過ごしてほしいと願っております。保護者の皆様におかれましては、どうか本年も昨年同様、本校の教育活動に対するご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



3学期 積雪のスタート

挨拶の大切さを見直そう！

第3学期始業式校長式辞

新年明けましておめでとうございます。みんなの元気な姿に再会できたこと嬉しく思います。

今日は「挨拶」について話をします。【昨年度も挨拶については、同じような話をしています。】

今の小原田中の「挨拶」の現状を、みんなはどう思いますか？きみたち一人一人は、自分自身の「挨拶」をどう評価しますか？

2学期の教育目標の実践事項の反省から、「相手を見て、心のこもったあいさつをしている」の項目では、63%の生徒が「できている」、29%が「どちらかというときできている」と回答しています。また、3年生の面接練習でも、「小原田中はどんな学校ですか？」という問いに対して、「あいさつが活発な学校」と答える生徒が多くいます。

でも果たして、胸を張って「挨拶ができている」「活発な挨拶が飛び交う学校」と言えるでしょうか？

毎朝、石井先生と校門に立つ中で、我々の目を見て、しっかりと挨拶のできる人がいます。時折、遠くからでも離れて立っている我々に対し、「おはようございます」と大きな声で挨拶をしてくれる生徒もいます。日中廊下ですれ違ふと、「こんにちは」とはっきりと挨拶できる生徒もいます。こちらに伝ってくる挨拶をうけると、とてもすがすがしい気持ちになります。

しかし、一方では挨拶のできていない人もいます。挨拶をしていても（自分では挨拶しているつもりでも）こちらに伝わってこない人、友達との会話のついでに形だけの挨拶をする人、中にはこちらから挨拶しても挨拶が返ってこない人もいます。少し距離が離れれば、挨拶ができない人もいます。昇降口や廊下など場所が変わると挨拶ができなくなる人もいます。

3学期がスタートする今日、きみたちにもう一度、「挨拶」について考えてほしい。仏教の禅宗で使用されていた【一挨拶】（いちあい いっさつ）という言葉があります。

『挨拶』は「たたく」と読みます。扉をたたく、ドアをノックするという意味です。『挨拶』は「ひらく」と読みます。扉を開く、ドアを開けるという意味です。「挨拶」をするということは、相手の心のドアを「トントン」とノックを



して、心のドアを「おはよう」「こんにちは」と言って開けることなのです。「挨拶」は 人と人とを結びつける基本のものであり、お互いの心を開くという意味が込められています。

では、挨拶はなぜこれほどまでに大切だと言われているのでしょうか。たくさんある理由の中から二つを紹介します。

一つには、挨拶は、やはり社会の基本となるルールのひとつであり、常識だからです。

基本的な社会のルールとして「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」「はじめまして」などの簡単な挨拶が出来るのは、社会人としての最低限のマナーです。これが出来ないのでは、常識のない人とみなされて、社会的な評価は低くなります。会社を経営する社長の多くが、挨拶のできる人材を欲しがっているのも当然のことかもしれません。

二つめには、挨拶をする方も、される方も、気持ちが良いからです。

誰かに挨拶されたから、流れて気持ちをこめず、ただ口を動かすように挨拶をしている人がいます。これではとても機械的で、言われる方も気持ちが良いものではありません。だからこそ、挨拶には、心をこめることが大切です。相手の目を見て、笑顔で、そして、相手に伝わる声で挨拶の言葉を発する。とてもすがすがしい気持ちになるはずです。気持ちの良い挨拶をしてもらえた友達や同僚たちは、もっと気持ち良く、さわやかな気分になるでしょう。

今回もきみたちに声を大にして言いたい。挨拶を決して軽く考えないでほしい。挨拶の大切さを知ってほしい。挨拶する習慣を自分の身体の内深くにしみ込ませてほしい。

たった数文字の言葉なのに、挨拶は計り知れない力を持っている魔法のツール（道具）です。ちょっとした言葉だけで、こんなに沢山の効果が得られるのであれば、有効活用しない手はありません。そして、挨拶には何の道具も、何の準備もいりません。ただ笑顔で言葉を発するだけで、相手に好印象を与え、人間関係を円滑にし、新しい人との絆を作り、相手を良い気分させるだけでなく、自分自身の評価をあげ、気分も良くしてくれます。

この3学期のスタートにおいて、一人一人が自分自身の挨拶について、しっかりと評価を行うとともに、挨拶の意義をよく考えてほしいと思います。朝の挨拶はもちろんですが、日中や帰りの挨拶、さらには、学校への来客に対する挨拶など、様々な場面において活発で相手に伝わる挨拶が行き交う小原田中学校にしてほしいと願っています。私はみんなを“打てば響く”生徒たちだと思っています。今日の挨拶の話が、具体的な行動や姿になっていくことを期待しています。

最後になりますが、3年生は、卒業までの登校日が42日です。一人一人が自分の進路目標を目指し、悔いの無いよう一日一日を大事にしながら、“仲間”とともに過ごしてほしいと思います。1・2年生は、49日という短い日数ですが、まとめの学期として、次の学年に繋げる学期にしてほしいと思います。



始業式 生徒発表 さすが代表の発表でした！

始業式は放送による式としました。生徒発表「冬休みの反省と3学期の抱負」では、3名とも、きらりと光るすばらしい内容の発表でした。

1年村上大介君は、今学期は“油断大敵”をモットーにするとともに、メンタル面の弱さの克服や苦手な整理整頓を頑張るという決意のもと、3学期を大きく躍進する学期にしたいと述べました。

2年岡田陽真君は、3カ月後には3年生となり小原田中をしょって立つ立場になることを踏まえ、苦手教科の克服、部活動を悔いのないものにする、家族の一員としての役割（家の手伝い）を果たすことを目標に掲げました。“辛いことを乗り越えれば、最高の景色が見れるはず”という言葉が印象的でした。

3年吉田歩夢さんは、高校入試に向けて、今まで以上に集中して勉強に取り組んでいくこと、“受験は団体戦”なので、“学級・学年が一丸となって切磋琢磨する体制”をつくること、コロナの影響が心配される卒業式ではあるけれど、どんな式になったとしても、様々な人たちからの支えに感謝し、感動できるものにしたいという強い決意が述べられました。

受賞報告では、2学期末に実施された学習コンテストにおいて、3教科満点を獲得した生徒を代表して、1年安田啓汰君、2年鈴木翔太君、3年間日菜乃さんがスピーチをしました。また、卓球の強化リーグで好成績を収めた高橋穂乃佳さんが受賞報告を行いました。

